

池の平クリスチャン村 (ICA)

日本基督教団妙高高原教会



妙高高原教会堂再建計画・基本計画



2023-10-24

ICA 建設委員会

ICA 理事会

【Part-1： 背景と概要】

| | |
|------------------------|---|
| 1. 背景 | 3 |
| 2. プロジェクトの概要 | 7 |
| 3. 教会堂再建計画のコンセプト | 8 |

【Part-2： 計画の詳細】

| | |
|-------------------------------------|----|
| 1. 妙高高原教会再建計画「基本計画」について | 14 |
| 2. 建設予定地・建築条件 | 15 |
| 3. 計画全体のタイムフレーム | 16 |
| 4. 再建計画の経緯 | 17 |
| 5. 組織・運営計画..... | 18 |
| 6. 再建計画スケジュール（建設委員会 アクションプラン） | 19 |
| 7. 資金計画 | 20 |
| APPENDIX | 22 |

1. 背景： 池の平クリスチャン村・妙高高原教会のロケーション

ICA の紹介と情報については「池の平クリスチャン村」で検索して下さい

ICA ホームページ URL : <https://ica-pray.org/ica-pray.org/>



旧教会堂： 池の平クリスチャン村（ICA）における妙高高原教会は ICA の基本である「福音的教会に所属する者、あるいはこの教会に協力しようとする同志が、高原の大自然の中で静養すると共に、交わりを深め、かつ近隣によき証をたてることを目的とする」という理念を元に 1966年に建設されました。



旧教会堂の礼拝・集会・交換会風景



延床面積：約 168㎡（玄関・事務所・トイレ含む） 礼拝堂：約 100㎡ 収容人数：50名～60名

経緯

妙高高原教会は、1966年の創建以来、夏の礼拝と総会及び交換会などの各種イベント、冬のクリスマス礼拝、そして会員にとってクリスチャン村に滞在中は自由に礼拝堂でオルガンやピアノに親しむことが出来る ICA の中心になる存在として長く親しまれてきました。しかし、2022年1月から2月にかけて見舞われた豪雪の為、妙高高原教会も屋根に積った大量の雪の重さに耐えきれず、建物のごく一部をのこしてほぼ全壊してしまい、最終的に「修復不能」との判断によって同年4月に全面的に撤去されました。

池の平クリスチャン村・妙高高原教会・再建計画について

この事態に対して、ICA は 2022年夏の総会で「礼拝堂に再建に向かう会員の意思」を確認し、「プロジェクトチーム」を発足させて再建計画を検討する事になりました。以降 2023年9月に至るまで、「再建に必要な検討事項の確認と整理」、「再建する立地と条件の検討」、「再建のたたき台としてのレイアウトと間取りの検討」を経て、「具体的な建設計画」をどのように進めるかを検討・討議してきました。その結果を理事会とプロジェクトチームからの提案として配信し 2023年8月12日に開催された「池の平クリスチャン村・日本基督教団妙高高原教会・定期総会」で再建計画の基本方針を決定しました。

この資料には、今後再建計画を具体的に進める為に必要な ① 再建に向けてのコンセプト確認、② 資金計画、③ タイムフレーム、④ 組織と運営、などの基本計画をまとめてあります。

2. プロジェクト概要

| | |
|-----------|---|
| 名称 | 日本基督教団 妙高高原教会 再建プロジェクト |
| 所在地 | 〒949-2112 新潟県妙高市池の平2243-2 |
| 目的 | 礼拝堂 / オープンチャペル / 公共スペースの建設 |
| 収容人数 | 約 40人 (建築面積 : 約100㎡) |
| 工事費予算(目標) | 第一次予算 : 2,200万円 (並行して「寄付/献金」を募りクラウドファンディング : 寄付型All-in 方式 の利用を検討) |
| 資金調達期間 | 2023年9月~2024年2月 (第二次・三次予算) |
| 設計期間 | 2023年12月~2024年春 |
| 着工予定 | 2024年春 |
| 完成予定 | 2024年度中 (2025年3月) 目標 |
| 設計者 | 未定 : 2023年秋~2024年春 決定予定 |

3. 教会堂再建計画のコンセプト（概要）

これまでの検討（会員対象アンケート等）を通じて共有を確認した基本コンセプトは以下のとおりです。

- 教会堂は「会員が集まって礼拝・集会ができるスペースと機能を有する」事を基本とし、池の平クリスチャン村創設の理念と存在意義を確認出来る場とする。
- 同時に ICA 会員以外のビジターに対しても、開放的で「ICA・妙高高原教会」の魅力を伝えられる空間の提供を実現する（ICA・妙高高原教会の理念をより広く伝達する事によって ICA 全体の活性化および新規会員の増加に繋げ、将来への可能性を拡大する事を目的とする）
 - ビジターセンターから杉野沢への遊歩道に接した「憩いのスペース」（広場・休憩スペースあるいは「青空コンサート」が可能な「オープンスペース）の検討 → 教会堂前に建物につながるテラスを設けてベンチを設置するなどのプランを検討。
- ICA 運営の将来計画を自覚し、ICA 会員の意見を幅広く検討して設計に反映させる場とする → 現会員及び次世代の意見を集約し反映させる

→ **2023年8月 ICA・妙高高原教会・総会で会員の総意を再確認**

3. 教会堂再建コンセプト（詳細）

池の平クリスチャン村

ここには夢があり 祈りがある

ここには信仰があり 希望がある

ここには何にもまして愛がある

夢がひろがり 祈りがもえ

信仰が 羽ばたき 希望が

さらに湧きあがる

そして愛がその波紋を

ひろげてゆく

そのすべては 神の祝福のしるし

池の平クリスチャン村は、以下の、(I) 癒される場、(II) 平和を発信し育む場、(III) 次世代に繋がる場としての機能を持った教会堂の建設を目指しています。

(I) 癒し（静養）の場

クリスチャン村は国内でも有数の薬草の宝庫である妙高高原に創られ、創立以降、大自然の中での信仰の共同体として歴史を刻んできました。今回新しい教会堂を建てるにあたり、地域の人々を初め、全国、あるいは国外から来られる方にも開かれた、豊かな自然の中での「静養」（リトリート）の場を作ることを目指しています。

その例として、

- 音響と照明にこだわり、クリスチャン村で録音された自然の音を教会堂で流し、スポットライトで聖書（あるいは聖句、キリスト教関係の本、絵本）を照らし、ふらっと入ってきた人が、自分自身と静かに向き合える礼拝堂を作る
- 外の自然の音（鳥、虫、川）を教会堂でも聴き、木漏れ日を感じられるような、神様がお創りになった自然の大聖堂を感じられるような工夫をするという案も出ています。

(II) 平和への発信、学びの場（モチベートされる場）

教会堂が倒壊したのは、2022年2月24日、ウクライナ侵攻が始まった日でした。そこから、平和について考えられる場所、発信できる場所として、様々なワークショップや学びの会、ドキュメンタリー上映会、講演会などを、地域や全国に向けて開いていけるような場づくりを目指しています。これらに加え、地域に開かれた音楽会も考えています。

(III) 次世代に繋がる教会堂

クリスチャン村も、日本のクリスチャン人口も、今高齢化と人口減少に直面しています。しかし、ここには次世代に繋いでいく大切なものがあると信じ、今回新しい教会堂を建設することとしました。したがって、子供たちにとって有意義な場、そして、こども世代に対して責任を持てる建築デザインを目指しています。例えば、

- 教会堂の前の土地を活かし、子供たちが遊べる広場にする
- 自然の光などを取り入れ、電力、エネルギー消費を抑えたグリーン・サステイナブルビルディングとするなど。

これらをサポートする上で、クリスチャン村周辺には以下のような施設があります。

- いもり池ビジターセンター、ワーケーションセンター
- 笹ヶ峰でのキャンプ
- 長野県信濃町、CWニコルさんのアフアンの森での馬（ホース）セラピー
- 野尻湖でのカヤック（ネイチャーセラピー）
- 黒姫童話館の「モモ」と自分の生き方への振り返り
- 森林浴、森林セラピー

将来的には、牧師が常駐する教会、また、クリスチャン村内の空き家をリノベートして、シェアハウスとして短期/長期滞在してもらえるようにすることも考えています。

そして、地域の教会を作る（地域の方々が集まってくる、毎週礼拝をする教会になる）という夢を持っています。

一方、池の平クリスチャン村は、クリスチャンと非クリスチャンがそれぞれ約50%ずつで構成されています。その中心となる妙高高原教会は、これまでもプロテスタント系クリスチャンの為という枠組みにとらわれる事なく、非クリスチャンに対しても他の宗教をもつ人々にも開かれた場でもありました。新しい妙高高原教会は、更に新しい時代の多様性を育ていける場になる事をめざしています。オープンな公共性を持った教会堂が実現すれば、様々なバックグラウンドを持った人々が集って相互にコミュニケーションが出来る場としてのチャンスも生まれます。

このような（夢のような）教会堂再建計画を低予算で実現するには「柔軟な発想とチャレンジ精神」が不可欠です。この計画をご覧いただいた皆さま、賛同して頂ける皆さまにご協力頂ける事を願って止みません。

【Part-2 : 基本計画の詳細】

| | |
|-------------------------------------|----|
| 1. 妙高高原教会再建計画「基本計画」について | 14 |
| 2. 建設予定地・建築条件 | 15 |
| 3. 計画全体のタイムフレーム | 16 |
| 4. 再建計画の経緯 | 17 |
| 5. 組織・運営計画..... | 18 |
| 6. 再建計画スケジュール（建設委員会 アクションプラン） | 19 |
| 7. 資金計画 | 20 |
| APPENDIX | 22 |

1. 妙高高原教会再建計画「基本計画」について

ICA・妙高高原教会は、現地で礼拝を開催することが出来る建物の早期実現を望んでいます。 予算が限られている事から様々な制約はありますが、素晴らしい自然環境の中で「小さくても自然の恵み・神の恵みを感じられる魅力的な空間」の実現を希求しています。

2023年9月現在、「教会堂再建計画」と「オープンチャペルプラン」をベースに再建計画の具体化を検討中です。

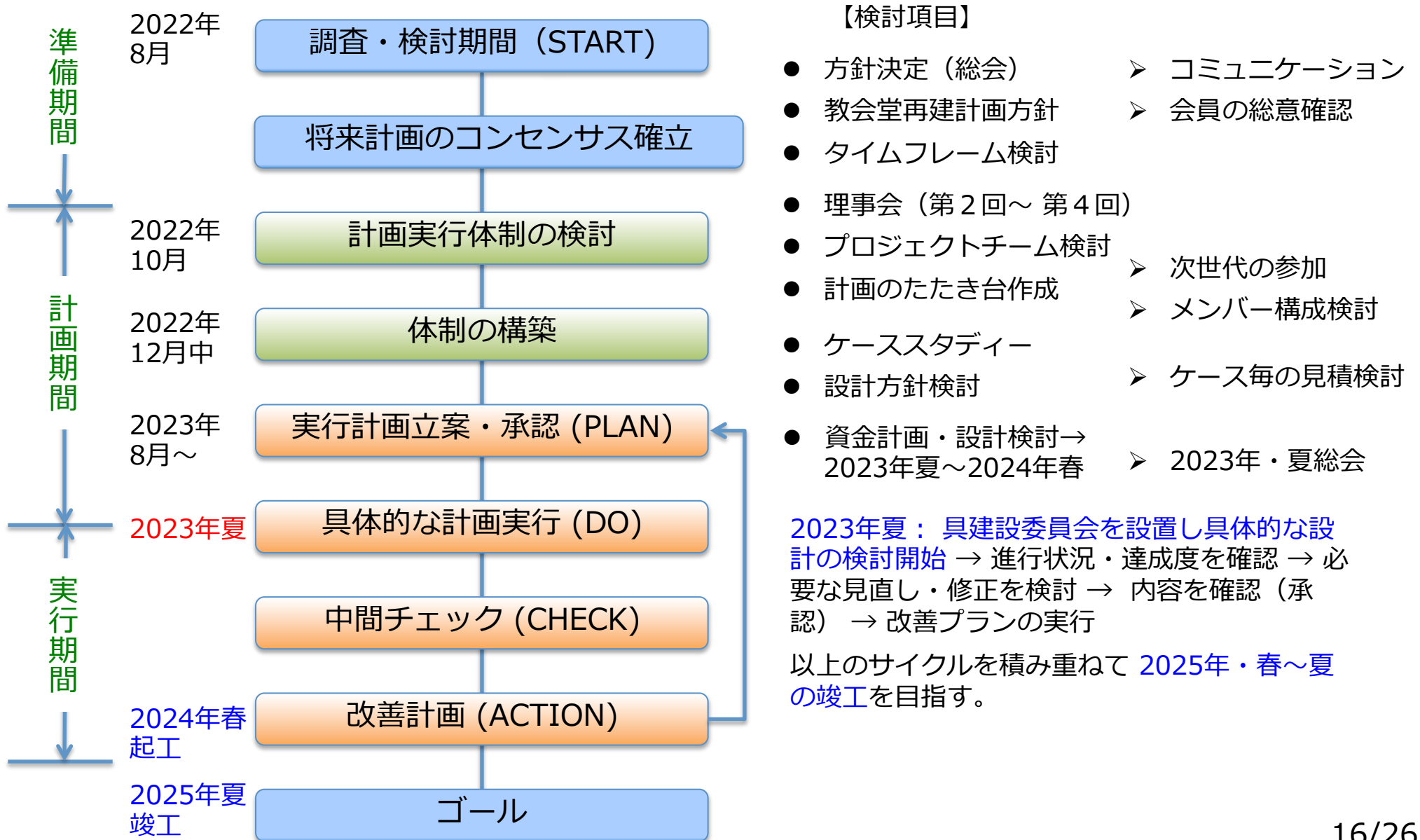
現在の建築事情は資材費用の高騰など厳しい環境下にあるため、再建を実現する為に可能な限り資金を調達し、かつ低コストで活用性が高い教会施設を可能にする設計や古材の利用などのアイデアを集約して、地域や訪問者に対して開かれた場、そしてこれからの社会変化の中で精神的な安らぎと支えが得られる空間の実現を目指します。

2. 建設予定地（旧教会堂跡地の西に面した土地（約 898m²）



2014年11月撮影； Google map ストリートビュー

3. 教会堂再建計画全体のタイムフレーム



4. 教会堂再建計画の経緯

教会堂再建計画の経緯と予定（2022年8月～2023年8月）

- 2022年 8月： ICA・妙高高原教会・総会での「教会堂再建に向けての合意」成立
- 2022年第2回理事会（2022-09-27開催）、第3回理事会（2022-11-07開催）および第4回理事会（2022-12-02開催）を通じて、教会堂再建計画について方針決定
- 2022年12月： 「教会堂再建計画案-01」をICAホームページに掲載 → 会員に配信
- 2023年 2月： ICA 会員・村友・関係者向けに再建計画に関するアンケート実施
- 2023年 3月： アンケート集計 → 「教会堂再建計画案-02」「教会堂再建計画-03・ケーススタディ案」提案 → プロジェクトチームの意見集約
- 2023年 4月： 建築費見積りの為の「[教会堂再建計画・説明資料](#)」準備
- 2023年 5月： 理事会で方針検討 → 「[教会堂再建計画・説明資料](#)」配信開始
- 2023年 7月： 検討結果に基づく「基本計画」立案 → ICA会員に配信
- 2023年 8月： ICA・妙高高原教会・総会で「基本計画」の方針決定 → 建設委員会発足

5. 組織・運営計画

1) 2023年 ICA・妙高高原教会総会及び教会堂建設用地検討を通じた決定事項

- ① 予算：2200万円をベース（一次予算）として計画を具体化する
- ② 着工を2024年第二四半期（4月～7月）とする
- ③ 建物の設計は建設用地（道路拡幅工事の代替地）を898㎡として、建築面積約100㎡～140㎡（max.）を目標とする
- ④ 建設委員会を設置しICA会員の委任をもって計画を遂行する
- ⑤ 完成は2024年度中（2025年3月まで）を目標とする

2) 建設委員会の構成と役割

- ICA 会員及び適正かつ必要と認められるスタッフから必要人数を選出
- 建設委員会の構成は以下の通りとする
 - ◇ 代表： 建設委員会の計画推進を統括
 - ◇ 建設委員会メンバー： ICA 会員の有志・自薦・他薦で選出（5名：9月現在）
 - ◇ 建設委員会サポーター： ICA会員及び関係者（5名：9月現在）
 - ◇ 建設計画アドバイザー： 建築関係、教会関係の専門家を招待（検討）
- 建設委員会の構成と計画は「計画書」作成→理事会で承認後、2023年9月に発足

6. 再建計画スケジュール（建設委員会 アクションプラン）

建設委員会の実行計画（2023年 8月以降の予定 - 案）

- 2023/08 : ICA 総会後に発足
- 2023/09 ~ : 教会堂の立地決定 → 現有予算（一次予算）で設計検討（公募開始） → 建設業者候補選定
- 2023/11末 : 再建予算の修正（二次予算）
- 2023/12 ~ : 対象業者への設計依頼（プロポーザル方式）
- 2024/03 : 三次予算決定 → 業者及び設計プラン選定（最終）
- 2024/03~ : ICA 会員への説明・配信
- 2024/04 : 会員の意見集約
- 2024/05 : 最終案の提示と総会での討議 → 決定
- 2024/06 : 着工（目標）
(2024/01 ~ 2025/03 資金計画・建設計画の管理 → PDAC サイクル実行)
- 2025/08 : 竣工（目標）

7. 資金計画 - 1/2

教会堂再建計画に関しては、これまでに「ICA_教会堂再建計画-01」、「ICA_教会堂再建計画-02」、「ICA_教会堂再建計画-03_ケーススタディ」の検討を通じて複数の設計会社から情報を得た結果、以下の条件が明確になってきています。

1. 手持ち資金（現金）は「約 1600万円」であり、ICA会員・日本基督教団関係の募金・献金を含めて「約2200万円が現実的な資金（第一次予算）」である
2. 「2200万円」の資金でコンセプトに沿った「礼拝が可能な施設」を実現するには、建築費を最小限に抑えた「シンプルな基本構造からなるオープンチャペル構想」や「コストを押さえたベーシックな設計」の検討が必要になる（APPENDIX 参照）。
3. 2023年8月のICA総会での討議・承認をもって「2200万円の予算で公募を開始し、予算内で建設可能な設計を「プロポーザル方式」で具体的に検討する
4. 同時に資金不足の場合を想定して「一般対象の寄付・献金およびクラウドファンディング」の導入検討を並行して進めておく（2023年11月時点：二次予算）
5. 最終的に、教団関係の献金、手持ち資金と合わせて「建築予算（第三次予算）」とし具体的な建築プランを2024年3月までに組み立てる。

7. 資金計画 - 2/2

1) ICA ホームページでの寄付募集

- 一般的な寄付の募集を ICA ホームページ上で開始する： 2023年 8月1日より実施
- オンライン献金.com への登録を検討 → 特設献金プロジェクトで再建資金を募る
 - 集まった資金は建築資金の他、礼拝堂関連設備や維持費にあてる

2) クラウドファンディングの利用検討

- 手持ち資金で予算が不足する場合には「寄付型 All-in 方式」のクラウドファンディングを利用する
- 目標金額は「礼拝堂/オープンチャペル」を建築するのに必要な建築費 (TBD) と手持ち資金 (2200万円) の差額とし、期間は 2ヶ月とする (必要に応じて延長し得る)。
- 資金調達の必要性が明確になった段階で、クラウドファンディングサイトにコンタクトし、最適な条件を検討し提案をまとめて実行計画をたてる
- クラウドファンディング対象期間終了後に「手持ち資金+調達資金」を「予算」として最終的な設計を確定し、[教会堂再建計画全体のタイムフレーム (P.16) の PDAC サイクルを経て「最終プラン」を構築する
- 着工を 2024年春 (理事会で承認後)、竣工を 2025年夏目標とする

APPENDIX

参考までにこれまでに検討したアイデア・プランを挙げてあります。

1. 礼拝堂/オープンスペースプラン構想

- 建設費を最小限に抑える為に基本的な構造（基礎と外壁）を堅牢な構造で構築する
（例：コンクリートテラス+外壁： 倉庫スペースを設置する）
- 冬季の積雪対策として固定の屋根は設けずに「開放構造」とし、夏季の集会・礼拝その他のイベント実施時には耐久性のあるテントを張って利用する。

2. 礼拝堂/オープンチャペルプラン具体例

- 教会堂再建計画で検討した「モデルケースのレイアウト」を開放的な「オープンスペースプラン」として、積雪期を除き「公共利用可能なスペース」として検討

3. 礼拝堂プラン

- 建設費を最大限抑えて居住可能な建造物としての礼拝堂を建設建設できないか検討

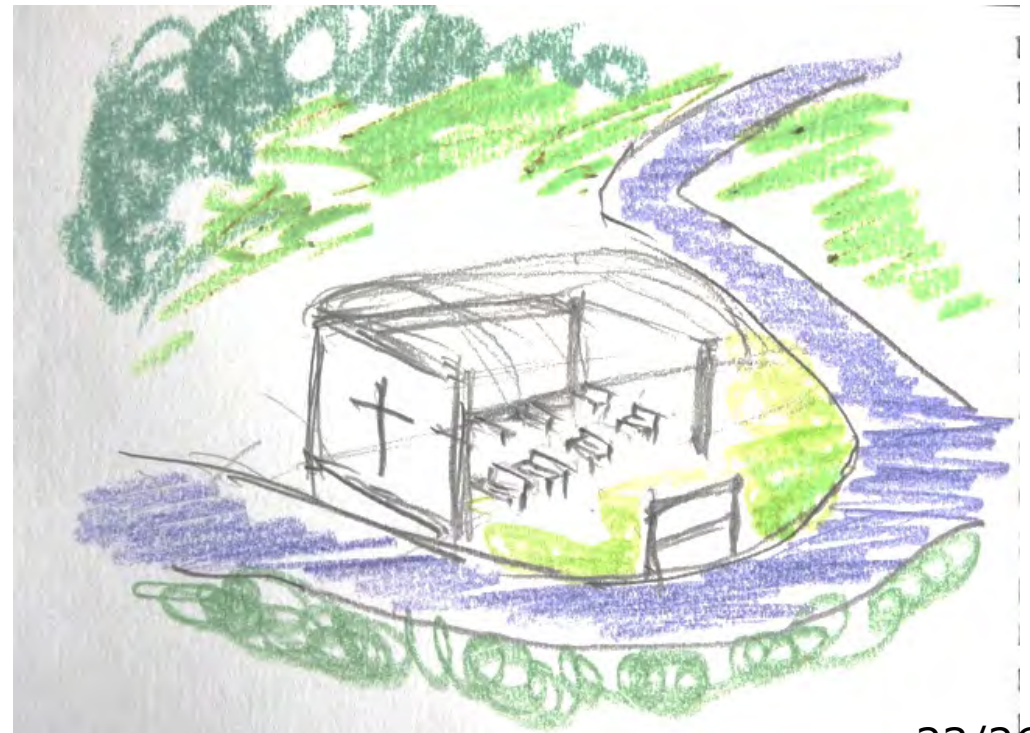
APPENDIX-1 : 礼拝堂/オープンスペースプラン構想

【コンセプト】

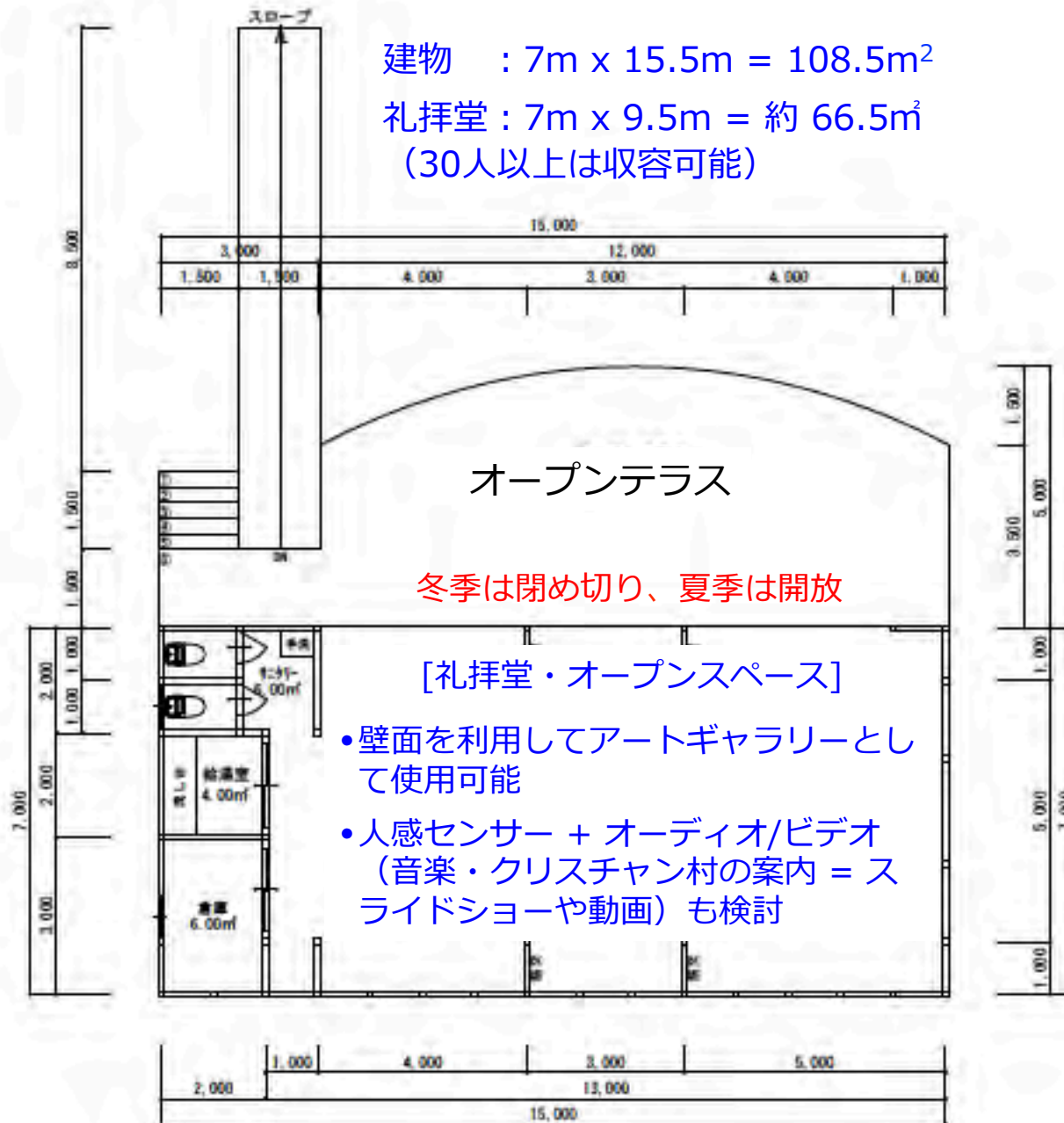
- 一般の教会では週一回の日曜礼拝が通年実施されていますが、妙高高原教会の場合には現状期待される利用頻度は夏季の一ヶ月間のみです。この場合、先ず手持ち資金の範囲内で、クリスチャン村の基本理念を維持しつつ「教会（宗教施設）であって同時に開放的な雰囲気の基本構造からなるオープンスペース」を建てる方法が考えられます。
- 「オープンスペースの基本構造」は「ICAの礼拝・集会を主目的とした上で訪問者にも開放的な休憩の場や青空コンサート」に使えるようにし、興味のある訪問者には連絡先登録の上で村の中を散策可能にする（新会員募集につなげる）ようなシステムを検討する事も可能です。

【シンボルゾーンのアイデア (例)】

- 基本の構造は「基礎部分・テラス+壁面」と「トイレ・倉庫スペース」を建築
- 1面あるいは2面を開放構造とし、屋根は耐雪に適した構造を採用する。
- 雪の無い期間中、オープンスペース（礼拝スペースとテラス）にはベンチシートとテーブルを自由なレイアウトに設置し休憩スペースとして利用できるようにし、夏季の日曜日には礼拝用に椅子を並べる。
- 中・長期的には（資金計画に応じて）本格建築への展開ができるように計画を立てる。

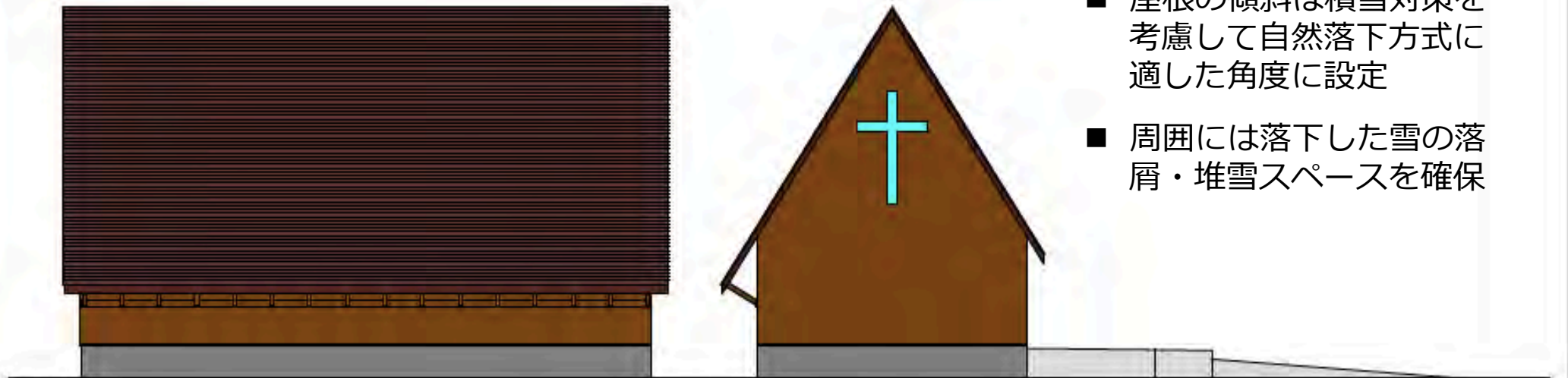
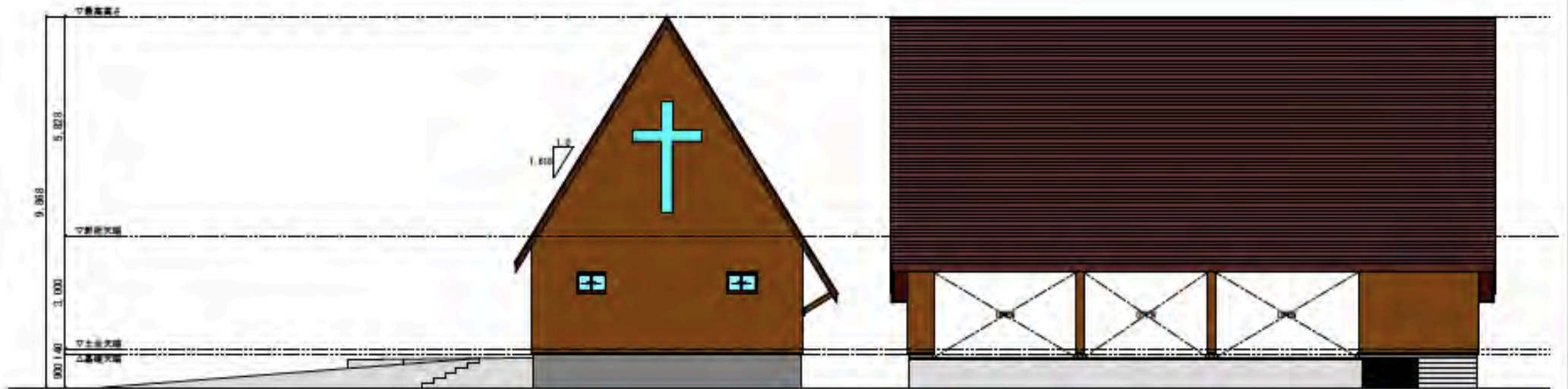


APPENDIX-2- 礼拝堂/オープンチャペルプラン具体例（平面図）



設計の狙いと考え方

- シンプルな構造で空間と低コストの両立を実現する
- テラスにつながる壁面は「開放可能な構造」にして広い空間を作れるようにする（冬は締め切り。夏は開放）→ 青空コンサートなどの開催が可能
- オープンスペースは多目的利用が可能（礼拝・集会・イベント）→ 採光・映像・音響を有効に活かせる設計と設備を備える
- バリアフリーを考慮する（アプローチに至るスロープ、多機能トイレ等）
- 将来的に常駐牧師が居住できるスペースの設置を検討



APPENDIX-3 : 礼拝堂プラン（旧教会堂跡地利用の検討例）

- 礼拝堂とテラスが連続したスペースとして使う事が出来て、開放感と広がりを感じられるレイアウト
- 常駐牧師が居住できるスペースの設置を検討

